

ワークショップの内容の一部変更について

1 日々の暮らしに公共交通を“ちょい足し”してみませんか？

緊急事態宣言の発出及び感染状況の拡大を受けて、全3回の開催から全2回の開催に縮小する等内容を一部変更して実施する。

(1) 目的

新計画の利用促進に関する実施事業に「町民の意識・行動変容を促す催事の開催」を記載する予定であり、本格実施に向けて試行し、実施上の改善点を明らかにすることが目的である。

(2) ワークショップの到達目標

- ① 参加者自身が、公共交通を利用する機会を増やせるようになる（自分の変容）
- ② 参加者が周囲の人へ、公共交通を利用する機会をつくれるようになる（他人に向けた変容）

(3) 対象

町内在住の方を対象とする。

特に、今回のワークショップで想定する参加者層は以下のとおりである。

- ① 今後、より多く公共交通を利用していただけることが見込まれるような方
 - ▶ 例えば、免許返納が必要だと感じている方（高齢者の方、その家族の方など）
- ② 公共交通を利用する機会をつくれる方（上記の「到達目標②」に関連）
 - ▶ 例えば、地域活動に積極的な方、地域の活動を主催するような立場の方など

(4) テーマ・内容

1つのテーブルに3～4名のグループを作り、各グループでの話し合いを中心としたワークショップを行う。全2回のプログラムを通して、参加者1人1人に自分らしい公共交通とのかかわり方を発見してもらい、上記の到達目標の達成を目指す。

ワークショップ各回のテーマ及び内容は表1のとおり。

表1 ワークショップ各回のテーマ及び内容

	テーマ	内容
第1回	本当に 大事なおでかけは何？	「今おでかけしたいところ」、「将来にわたっておでかけしたいところ」を可視化することで、日々のおでかけ行動を省みてもらい、自分にとっての「おでかけの大切さ」に気づいてもらう。
第2回	私の暮らしに公共交通を“ちょい足し”してみよう！	公共交通を使いこなすために、自分や周囲の人の暮らしに公共交通を“ちょい足し”するためのレシピを考え、発表し合う。 ※“ちょい足し”レシピの例：自分が利用する機会をつくる、周囲の人が利用する機会をつくる、利用しやすい環境をつくる、等

フィールドワーク ※感染対策のため、 参加者が個別に自由実施	感染状況を鑑み、可能であれば“ちょい足し”レシピを実施し、感想を記載した様式(目的地、同行者の有無(人数)、利用用途、利用ルート、感想等)を防災交通課に提出していただく。頂いた内容はニューズレター等でフィードバックする。
--	--

※1地区あたり3～4名程度を目安とし、最大定員は36名とする。

※利用促進を目的とした全2回の内容であれば、地域差を考慮する必要もないため、テーマ及び内容を「う・ら・ら」から「公共交通」に切り替えた。

(5) 開催日時・場所

表2のとおり開催する(バスの発着時刻に合わせて開催)。

表2 ワークショップの開催日時・場所

	開催日	開催時間	場 所
第1回	11月19日(金)	午前10時45分から(90分ほど)	イオンモール東浦 2階 イオンホール
第2回	11月20日(土)		

※現在の応募者数(31名)で開催するため、2部制から1部制に変更し、全地区合同で行う。

(6) 実施体制

全体進行や説明等を名古屋大学大学院 研究員 大野悠貴氏が務める。

このほか、全体進行を補助するサブ進行役が1～2名、各テーブルでの議論を補助するスタッフとして名古屋大学学生、及び防災交通課職員が4～6名参加する。

(7) 参加者の募集

感染状況を鑑み、新たに参加者を募集せず、現在、ワークショップに応募していただいた方にのみお声掛けする。ただし、日付の変更に伴い参加者数が極端に少ない地区が生じた場合のみ、再度、地域連絡所長等に本ワークショップの対象にあてはまる住民への声かけ協力を依頼する。